

1 自己評価及び第三者評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2875201705		
法人名	医療法人 八十嶋病院 やそしま医院		
事業所名	グループホーム花の風		
所在地	神戸市西区伊川谷町有瀬556-1		
自己評価作成日	令和3年8月5日	評価結果市町村受理日	令和3年10月4日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

花の風は三方を美しい緑に囲まれホーム前方には広い公園があります。敷地内の庭園には四季折々に草花が咲き乱れます。隣接のケアハウスの入居者様との交流も深まりより活発な日常生活を過ごしています。理念とする「明るさ・やさしさ・おおらかさ」のもと、ご入居様がお自分らしく楽しく過ごして頂けるよう、職員によるきめ細やか見守り重視による安全確保とともにおひとりおひとりの自由と尊厳を守り、自然体でお過ごし頂けるよう支援に努めています。2ヶ月に1回開催される運営推進会議では、皆様の活発な意見交換の場としてホームの質の向上に活かさせて頂いて頂いております。又ボランティアグループの多くの方々にご支援、ご協力を頂いております。(現在新型コロナウイルス感染症拡大防止の為中止させて頂いております。)

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.wam.go.jp/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人コミュニティ・サポートセンター神戸
所在地	兵庫県神戸市東灘区住吉東町5-2-2-104
訪問調査日	令和3年9月9日

事業所理念は「明るさ、優しさ、おおらかさ」である。職員は敬語を使って入居者と会話する。職員全員が「介護職員のための感染対策マニュアル」を学び実践している。表通りから入り込んだ山林の残る広い敷地に建ち、玄関先は広場で、入居者は職員と一緒に散歩する。桜の季節には「あずま屋」で休憩しお茶を飲む。感染防止のため面会、外出行事等は原則禁止している。季節行事は職員が工夫を凝らして運営している。ミニ夏祭りには女性は化粧をして浴衣、男性は法被を着て、スーパーボールくじを楽しみ、ベビーカステラを頬張った。花見の団子、敬老会のおはぎ作りも好評だった。家族には毎月、入居者の写真を貼りつけた手書きの「花のたより」が届く。新型コロナウイルス禍の厳しい運営を強いられているが、事業所の対応は、家族から高い評価を得ている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を 掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、 求めていることをよく聴いており、信頼 関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面が ある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人 や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元 の関係者とのつながりが拡がったり深まり、 事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表 情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむ ね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく 過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービス におおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟 な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および第三者評価結果

グループホーム花の風

評価機関:CS神戸

自己	第三者	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域に密着した介護サービスの運営方針や明るさ・やさしさ・おおらかさの理念の基、全職員が行動指針を確認共有しながら実践に取り組んでいる 毎日朝礼(申し送り時)理念を唱和している	事業所理念は「明るさ、優しさ、おおらかさ」である。毎日朝礼を行い、共有化している。職員は敬語を使って話す。「ため口」は禁止である。昨年、接遇委員会を立ち上げ改善に取り組んでいる。「介護職員のための感染対策マニュアル」を学び実践している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会主催のふれあい喫茶やなごみ会、ボランティアや保育所園児との交流の実施等地域の一員として繋がりを深めている ・ふれあい喫茶については、民生委員様、地域の方のご理解のもと車椅子の方、入居者様に行っている。(コロナ禍で中止)	地域との交流は、双方の新型コロナウイルス感染症対策のために中止している。自治会行事等の情報は、運営推進会議メンバーの民生委員から電話で知らせてもらっている。四季折々の行事等は職員が企画、工夫して事業所内で行っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域のボランティア様を受け入れご入居者様との交流を図り認知症の方々への対応をご理解頂き、今後とも協力頂けるよう呼び掛けている		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回開催しており、ご入居者様、ご家族様、あんしんすこやかセンターの職員様、民生委員様、他施設管理者様、知見を有する方等の参加により多くの情報やご意見を頂いたり交換する機会としサービス向上に活かしている	神戸市介護指導課に確認のうえ、参加メンバーにも連絡して令和2年4月以降、開催を中断している。定例の開催予定月には、月別行事予定、月別事故報告と行事報告を作成し、参加メンバーの伊川谷あんしんすこやかセンター職員に、ファックスで届けている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	区域に於いては、グループホーム連絡会等の場においての連携やご入居者様の諸手続き等を通じて行き来する機会を持っている。また、他グループホーム運営推進会議2施設に行かせて頂き情報交換している。	グループホーム連絡会があれば出席し、あんしんすこやかセンターには現在でも運営推進会議の報告事項や内容をファックスで送り、協力関係維持に努めている。県市から要請のある新型コロナウイルス感染症対策は確実に実施している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	「身体拘束廃止研修、虐待研修、ケア会議」を行い、拘束ゼロが続くよう努力している ・現在身体拘束ゼロです	身体拘束等適正化委員会が毎年2回全職員を対象に研修を行い記録している。夜間の暴力暴言抑止のための介護衣利用に関し、委員会が協議し家族に承諾を得て対応した。事業所玄関は昼間、居室扉は常時開錠している。玄関チャイムと徘徊感知機を設置している。	

自己	第三者	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7	(6)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることのないよう注意を払い、防止に努めている	虐待防止については、外部研修、内部研修等を通じ意識向上しています。虐待防止についての冊子、資料の回覧周知をし今後も虐待が見過ごされる事がない様防止に努めている。虐待防止研修を年2回以上行っている。	高齢者虐待防止委員会が毎年2回全職員を対象に研修を行い記録している。不適切な言葉遣い等がある場合には職員が相互に注意する。管理者がトラブルを予感した時は、職員を別フロアに移す等、当事者を引き離すよう対応する。	
8	(7)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	冊子、資料の回覧周知しや成年後見制度(神戸市社会福祉協議会神戸市成年後見支援センター)講習を受け理解を深めているが又、開催される様なら是非とも参加を希望する。	入居者に3人の成年被後見人がいる。成年後見制度の法律上の財産管理等は身近に体験するが、制度を体系的に学ぶ機会が得られていない。玄関に成年後見支援センターのパンフレットを備え置いて家族等の閲覧に供している。	成年後見制度は事業所にとっても助けとなる制度であり、必要と考えられる入居者がそれらを利用するまでの支援ができるよう制度を学んでおくことを期待します。
9	(8)	○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時にはご本人やご家族の意見等を充分にお伺いし、重要事項説明書をよみあげている。また説明させて頂きご理解を頂く様にしている	契約時は、管理者が重要事項説明書、入居契約書等を読み上げ丁寧に説明している。重度化し医療が必要になった場合は病院や系列の介護老人保健施設等を利用頂くことも理解してもらって契約している。実費が発生するケースや苦情申し立て先は明確に説明する。	
10	(9)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご入居者様には日常の声掛け等を通じて意思疎通を図り、ご家族様に関しては、苦情相談の受付窓口を重要事項説明書に明記ご案内しています。また、施設玄関にも苦情処理箱を掲示していつでも相談できるようにし、頂いたご意見は早急に検討対応しています。ご家族様、来訪時、ご入居様のホームでの生活状況をお話しさせて頂いています。	入居者家族には介護計画の改定時に電話で意向意見を聞いている。定期的に来所される家族、専門科へ通院のために来所される家族には、玄関先で意向意見を聞いている。家族から要望の多い入居者とのリモート面談やテレビ電話への対応を検討している。	入居者家族は、事業所に信頼を寄せているものの、入居者との面会が自由にできない不満と不安をお持ちです。検討中のWebアプリやテレビ電話による面談の早急な実現を期待します。
11	(10)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議等の定期的な会議の場を設けるとともに、管理者と職員の面談を定期的に行い、職員の意見を充分に聞ける機会を設け職員の提案を職場に反映させている	毎月の職員会議に職員の意見が反映できるよう担当者がアンケートで議題を選定する。季節行事は担当職員が企画運営する。ミニ夏祭りには女性は化粧をして浴衣、男性は法被を着て、スーパーボール掬いを楽しみ、ベビーカステラを頬張った。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	労働時間においても職員の要望を確認し、柔軟に対応しています。資格取得等については待遇面で反映し意欲の向上を図っている		

自己	第三者	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	認知症介護実践者研修、市民救命士講習等の積極的な受講、グループホーム連絡会や運営推進会議への参加、認知症サポーター研修受講等に取り組み職員スキルアップにつとめている。法人内での研修会にも常時参加している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他施設運営推進会議参加や法人グループ内のサークル活動を通じ、交流の場を作りサービスの質の向上につなげている		
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	面接時に得た情報を全職員で共有し、施設の生活に慣れて頂くよう、特に精神面のケアに充分配慮し、聴くこと待つ事を大切に不安が解消していくように努めている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	初回相談からご入居に至るまでご家族様等の不安、ニーズをよく聞いて受け止め、信頼関係の構築に努めている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	初回相談時のニーズを見極め当ホームへのご入居が本当にご本人にとって適切かどうかも含めた対応に努めている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご入居者様と職員は日々の暮らしと喜怒哀楽を共にし、人生の先輩であるご入居者様から学び支え合う関係を築いている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族のご理解にご協力なしにはグループホームでのケアは成り立たないといっても過言ではなく、ホームとご家族様にはご本人を共に支え合う関係であるよう努めている		
20	(11)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族様ご親族様はもとよりご友人等との関係性が継続できるように努めています。また、なじみの店や喫茶店などにお出かけする行事もおこなっている	感染防止のため家族との面会も自粛願っている。着替え等生活用品の引き渡しも玄関で職員が受け取っている。毎月3人の家族から送られてくる手紙は、職員が届けて居室で一緒に読んでいる。一人の家族からは、毎月職員にもお礼がしたためられた手紙が届く。	

自己	第三者	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ご利用者様同士の人間関係を十分に把握し、ご入居者様同士が良い関わりが持てる様、またトラブルが発生しない様により良い関係性の維持に努めている		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	継続的な関わりを必要とされている方やご家族様に対してはいつでも相談頂けるよう対応し、他施設にご入所された方には相談員様と連絡を取り経過をフォローしている		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご入居者様との会話などを通じ、思いや希望の把握に努めています。困難な場合でもできる限り希望に添えるように検討し近づけるように努力している	日々のかかわりの中で、表情や何気ない会話を通して体調や感情の変化を察し、記録して申し送っている。意思疎通が困難な方には、「はい」、「いいえ」で答えられるような簡単な会話を心掛け、一人ひとりの意向に沿えるよう努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居相談時にご本人やご家族様から生活歴や暮らし方等について充分お聴きし把握してホームでの生活に活かせる様に努めている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの一日の過ごされ方、心身状態、有する力、ホームでの人間関係等の現状を総合的に把握するよう務め、ケアプランに反映し支援している		
26	(13)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアプランの定期的な見直しの際にはご本人やご家族様の要望を確認し、モニタリング会議等を通して、又、入退院等緊急案件が有る場合はその都度会議を行い作成している	居室の担当者が毎月モニタリングを行い、ケア会議で関係者が集まって6カ月毎に介護計画を見直している。体調の変化などで計画変更が必要な場合は、家族や関係者と随時検討し、現状と意向を反映した計画書を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子、ケアの実践、結果、気づきは、管理日誌、カルテに詳細に記録すると共に情報を共有し実践や介護計画見直しに活かしている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご入居者様の体調の変化やご家族様の状態の変化があれば、随時ご入居者様ご家族様職員間で話し合い見直しを行うと共に、必要に応じて他サービスとの連携も含めて、多機能化に取り組んでいる		

自己	第三者	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	月1回のふれあい喫茶・なごみ会の地域行事に参加させて頂く等、お一人おひとりが安全で豊かに暮らして頂けるよう支援している		
30	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	母体が医療法人であり、連携しているやそしま医院より毎週診察等を行っている。また入居前からのかかりつけ医等を主治医としたい旨のご要望等には必ず対応し、希望や必要があれば、家族様の協力を得ながら受診できるよう支援している	協力医療機関の内科医師による月2回の往診がある。必要に応じて眼科医、歯科医の往診も受けられる。かかりつけ医は近隣の内科医院とする方が多い。かかりつけ医や他の専門科受診は、家族に対応してもらいが、1回目の診療には職員も同行している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職不在の為、日々の様子、ケアの実践、結果、気づきはすべて管理日誌、カルテに詳細に記録すると共に、主治医へ報告し、指示のもと適切な対応ができるよう努めている		
32	(15)	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病院関係者とは密に連絡を取り、状態の確認等の情報交換に努め退院時には早急に受入できるよう支援している	入院時には、日ごとの健康状態や様子を伝えサマリーを提供している。退院連絡があれば看護情報を得て、医師の指示を踏まえ事業所での介護計画を関係者で話し合っ作成する。家族の意向で系列の介護老人保健施設などを紹介することもある。	
33	(16)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期に関しては、ご入居時に家族様のご意向の確認をおこなっている。重度化した場合には面会時にご本人の状態やホームでできる対応の説明をおこない、ご家族様と話し合っている。遠方や忙しいご家族様には電話等により密に連絡を取り対応している。また地域の施設や病院の相談員と連携を取り、早急に対応できるよう取り組んでいる。	入居契約時に重度化した場合の対応や方針を家族と話し合い確認している。食事介助によっても呑み込みが難しくなった段階で、安心な終末期が過ごせるよう関係者が話し合っ、病院や系列の介護老人保健施設の利用を含め選択肢を提案している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時等にはすべての職員が初期対応を取り管理者・かかりつけ医、主治医に連絡し、必要に応じ医療機関へ即座に連絡受診対応できる様にしている。		
35	(17)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署と共に最低年2回避難訓練等を実施するなどして避難する方法は周知できている。また大災害に備え食糧や飲料水等も3日分程度の備蓄を用意している ・夜間時の災害訓練を夜勤職員と共に行いました	年2回消防訓練を行っている。昨年は、夜間を想定した夜勤勤務者による避難訓練等を行った。事業所は、住宅・商業地からは離れた立地のため、災害時には唯一隣接のケアハウス職員の協力を得ることにしている。3日分程度の食料、飲料水を備蓄している。	昨今、集中豪雨などの災害が発生しています。突然、停電や断水が起こり困ったという事例があります。万一の場合の対策やマニュアルの確認を期待します。

自己	第三者	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(18)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	書類等の個人情報、職員事務所に保管しており職員以外は入ることが出来ず、利用者様に対する声かけは丁寧に行っており、プライバシーには十分配慮している ・花の風は危険回避を除いてため口、禁止です。	入職時と年1回接遇マナー研修を行い、一人ひとりの尊厳を大切にしよう努めている。危険回避を除いてため口は禁止としており、職員間でも気をつけあい、さりげない言葉かけや対応を行っている。個人記録や情報は適切に保管されている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご入居者様が自己決定できる言葉掛けを行い、ご自身で自己決定して頂いている。また、思いを聞き出せるよう支援している		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	買い物、散歩等のご入居者様の意向を確認しながら体調に留意し見守りを大切に支援を行っている		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	職員が、ご希望に添えるよう自室内の整理整頓等・衣類の用意など支援している。一緒に出来る入居者様は職員と一緒にいる。身だしなみについては2か月に一度の訪問理美容等で対応し、他の理美容院等のご利用も希望に応じている		
40	(19)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食べる事に興味のある方やそうでない方も楽しみを持って食事が出来る様に味付けや彩に配慮し、食べやすい大きさにするなど工夫をしている。その日の気分や体調に合わせて食事準備から片付けまで負担のない範囲で職員と一緒にいる	隣接のケアハウスで調理された食材を、個々の嚥下能力に応じた量や形態を考慮して盛り付けている。ミニ夏祭りにはベビーカステラを焼き、誕生日会にはケーキの飾りつけをして楽しんだ。花見の団子、敬老会のおはぎづくりも好評だった。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	ご入居者様一人ひとりの摂取量・水分量等、1日を通して記録し把握している		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後には自立支援の為、又ご入居者様の力を引き出せるようご自分で歯磨きをして頂き、その後職員が磨き残しがないか口腔内チェックを行い日常的に清潔を保てるように支援している。又、ご希望に応じて訪問歯科、口腔ケアを実施して頂いている		

自己	第三者	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(20)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	リハビリパンツ、おむつを出来る限り使用しないで済むように、それぞれの排泄パターンを把握し、トイレでの排泄等自立に向けた支援を行っている	一人ひとりの排泄パターン、サインを職員が把握し、さりげない支援をしている。排泄時間、量をチェック表に記載し、自立に向けたトイレでの排泄につなげている。昼間はできるだけおむつやパットは止めるようにしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分摂取や適度の運動をする事で排便を促し正常排便できる様努めている。排泄チェック表に個々の排泄を記録し一定期間排泄がない場合は主治医から処方されている便秘薬を服用する		
45	(21)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	週2、3回程度の入浴を行っているが、体調に合わせてまた希望に合わせて毎日、又その都度、日時の変更等も柔軟に行っている	脱衣場に時には季節の花を飾り、楽しい気分で入浴できるように工夫している。毎日入浴する方もいる。気がすすまない方には、体調やタイミングを見計らって声かけするなど、不安を感じないように配慮して週2回は入浴できるよう努めている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの睡眠のリズムを把握し気持ち良く休んで頂き、又年齢や体調に合わせて昼間の睡眠も支援している		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員はご入居様が服用する薬の目的や副作用、用法、用量を周知しており、医師の指示通り服薬できる様支援し、また症状の変化を医師に伝達確認している		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ご入居様の持つ得意分野を發揮して頂けるよう努め活力を引き出すよう支援し、調理、家事、歌、傾聴ボランティア、踊り等ボランティアの協力で活気ある日常を過ごせている		
49	(22)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	買い物や散歩などの外出は気分転換になると捉え、可能な限り出掛けられるようにしている。ホームの広い敷地内や隣接する公園等を散歩し地域の方々と会話ができる関係が築けている	元気な方は、玄関先の広場を職員が付き添って散歩する。桜の季節には散歩を楽しみ玄関横の「あずま屋」でお茶を飲み休憩した。コロナ禍で家族との面会や外出が自粛となり、買物にも出かけられないが、職員が買物の希望を聞いて代行することもある。	

自己	第三者	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご入居様が金銭管理が出来ない場合は職員が記帳管理し、買い物が可能の方はその都度ご自身でお支払いして頂く等の支援をしている		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人から電話の要望があれば家族様の了解を得適切に支援できる様にしている		
52	(23)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間は音楽が静かに流れ、季節の花や利用者様が作成された作品を飾るなど居心地良く過ごせるよう工夫している。又リビングはテレビ鑑賞、ダンスや踊り、皆が唄ったり、踊るスペースとして利用できる	換気時間はチェック表に記入して管理している。静かな音楽が流れ、窓からは木々の緑を揺らす風が入ってくる。床面、テーブル、椅子等は午前と午後に消毒する。コロナ禍のため、居室の入口に椅子を移動し、人の動きを眺め穏やかな雰囲気を感じている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	広い共用空間は食堂部分とご入居者様、来客者等がゆっくりとくつろげるリビングルームに分かれている		
54	(24)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご自宅で使いなれた家具、仏壇、生活用品を居室へ持ち込んで頂きご入居者様がご自宅で過ごされていた時のように居心地良く過ごせる様に配慮している	居室の床は職員がモップで消毒し、家具もアルコール消毒し感染症対策を励行している。その人らしい馴染みの洋服掛けや飾り棚などが置かれ、家族写真や手作りの小物もあり、自宅の生活と変わりなく居心地よく過ごせるよう工夫されている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	安全を重視しつつも「できる事」「わかること」が活かされる様お手伝いすぎない様努力をしている。特に「安全の確保」と「自立支援」のバランスを欠くような支援が見受けられた場合には職員間で十分な会議を持つようにしている		